

びわ湖かがやき カンパニー

びわ湖のほとりで「キラ」っと輝く滋賀県
中小企業家同友会メンバーの事業所、
商品、サービスをご紹介します。

<インタビュー>
取材まとめ：八木真紀（有限会社ウエスト）



vol. **84**
2018年6月発行

お米の家倉

農家を継ぐことに迷いを持ちながらも、五代目を継承。2年前には「お米の家倉」として法人化、無農薬栽培や新たな品目に挑戦するなど、農業の新しい可能性をポジティブに展開する家倉敬和さんを訪ねました。（取材／4月6日）

広大な湖北の農地 五代目が引き継ぐ こだわりの米作り

代々続く農家さんだそうですね。
現在の主な農作物や販路とは。

家倉 専業農家だった家業を継ぎ、今年で15年目の春を迎えました。350反（甲子園球場約30個分）の農地に5種類の米と小麦、大豆、小豆、キャベツを生産しています。中心となる米は、酒米の玉栄、滋賀羽二重糯、みずかがみ、コシヒカリ、ミルキークイーンです。米屋さん、農協さん、地元のお客さんやネット販売の小売りもあります。ほとんどがプロ向けの契約栽培になっています。地元の異業種との交流も盛んで、お菓子屋さんには糯米や小豆、老舗酒蔵さんには無農薬米を使ってい



無農薬米を作る田んぼでは、生き物が戻ってきました。田んぼに水を張って土を細かく砕いて掻き混ぜ、田んぼの表面を平にする代掻きという作業は、泥で水が濁ります。県内最上流部での米作りは、環境に配慮するための取り組みや技術も必要とされます。

えたのです。そんな思いがきっかけとなり、無農薬での米づくりにも挑戦しました。苦勞の末に収穫した一年目の無農薬米は、まだ田んぼ

ただいています。2016年には会社組織となり、経営者として同友会で経営指針づくりにも取り組みました。これまで決して順調に歩んできたわけではなく、農家としても僕個人としてもいくつものターニングポイントがありました

「適期」を逃さないこと

家倉さんの米づくりの特徴とは。

家倉 20歳のとき、田植えの手伝いをした際に農薬が右目に入ったことがあります。その後、右目の視力がどんどん落ち、初めて農薬の怖さを実感しました。また、田んぼに除草剤を散布したとき、ドジョウなどいろいろな生き物が浮かんできたのを見て、生き物が棲めない田んぼでできる米に違和感を覚

えたのです。そんな思いがきっかけとなり、無農薬での米づくりにも挑戦しました。苦勞の末に収穫した一年目の無農薬米は、まだ田んぼ

無農薬米以外の米も、県が定める農薬基準値をはるかに下回る数値を維持し、環境にも体にもやさしい米作りを心掛けています。

農業に頼らず、健康で耐性のある稲を作るには「適期」を逃さないことが大切です。品種特性を理解し、条件に適した田んぼと品種とをパズルのピースのように組み合わせ、最適な時期に最適な作業を進められるようにすることが最も大切なことだと考えています。



繁忙期と閑散期のある農業。「1月、2月は閑散期。思い切ってこの期間を長期休暇にし、「農業ならではの働き方」を取り入れてもいいかもしれない」と家倉さん。



5種類の米のほか、小麦や大豆なども生産。その年の気象や天候も考えながら適期を逃さないように作業計画を立てます。また、自分たちの強みを理解し、その強みを活かせる農業の形に挑戦しています。

滋賀を代表する酒米を 目指すはカッコいい「農業」

今後の目標とは。

家倉 湖北は数千年も前から米作りの歴史があります。今、私たちが作っている品目の中では酒米の「玉栄」に可能性を感じています。兵庫県の山田錦は、酒米の代名詞として全国的にも有名ですが、滋賀には33もの酒蔵がありながら、酒米には十分な光が当たっていないとは言えません。富田酒造さんに使っていただいている「玉栄」を全国的なブランドにし、その中でも長浜が



No.1の産地として認められるようにしていきたいですね。

また、組織運営にも力を入れたいと思います。法人化して2年になりませんが、私と両親以外に正社員は1名で、繁忙期には地域の高齢者や主婦の方々にパートナーとして働いていただいています。作り手が笑顔で仕事をできなければ、いいものは作れません。人生の中で仕事に費やす時間は長いものです。社員の特性を活かし、活躍の場を広げるために、将来的には加工品や飲食業など農業の多角化も検討しています。いかにして仕事の時間を気持ちよく過ごせるかを考え、みんなが幸せになる働き方を追求していきたいですね。

僕が大学を卒業するころ、農業のイメージは決して良いものではありませんでした。帰郷して家業を継ぐことにも本当はものすごく抵抗感があったのです。だからこそ、自分が農業をする使命として、カッコいい農業を目指したい。掲げた経営理念を実現する



お米の家倉

長浜市小谷丁野町826
TEL 0749-78-0345
<http://yagu.jp/>



地元では家倉さんの酒米や糯米、小豆を使った商品が生まれています。社員と共に富田酒造有限会社へ酒の仕込み研修を行ったことも。「自分たちが作った酒米の醸造工程を体感することで酒米の質を高めるヒントや仕事へのモチベーションを高めることができた。また、チームで仕事についているんな角度から刺激をもらい、勉強になった」と家倉さん。



ために挑戦し続けることがカッコいい農業だと思っています。従業員の待遇や福利厚生も充実させて、10年後には滋賀県農業界で「社員満足度No.1」、「あの会社で農業をやってみたい！」と次世代の人たちにも思ってもらえるような会社になりたいですね。農業従事者が減少する中、農業のイメージを変え、その魅力を伝えることで農業の社会的地位を上げるモデルケースとなるような会社づくりを目指していきたいと思います。

「びわ湖かがやきカンパニー」に掲載希望の会員様は、同友会事務局までご連絡ください。お申し込み多数の場合は、理事会等で掲載順を決めさせていただきますのでご了承ください。

滋賀県中小企業家同友会事務局
TEL 077-561-5333

周年事業はチャンスなのです。

「10周年」を迎えられる企業は100社に5社。

「30周年」は10,000社に2.5社しか残らないと言われています。

有限会社ウエストは、周年事業をステークホルダーへの感謝と共に未来への意思表示の機会と考えています。弊社は、感謝を表現する式典の運用や記念誌製作から、ストラテジー決定のお手伝い及びその広報活動など、周年に関するワンストップサービスをご提供いたします。



滋賀県中小企業家同友会会員企業 **有限会社ウエスト**
〒523-0898 滋賀県近江八幡市たかかひ町南一丁目3-11 <http://www.west-design.com>

0748-43-0155